

古文ドリル：「む」の用法識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「む」の正体（6用法）

古文の助動詞「む」は **1語で6つの意味** を持ちます。識別問題では「どの意味か」を答えるパターンが多い。

用法	訳	判別ポイント	例
① 推量	～だろう	3人称が主語	雨降ら む
② 意志	～よう・～たい	1人称が主語	我れ行か む
③ 勧誘	～したらどうか	2人称が主語	君行か む や
④ 適當	～のがよい	2人称+助言	早く帰ら む
⑤ 婉曲	～のような	体言の前	思は む こと
⑥ 仮定	もし～ならば	「～むには／～む人」など条件節	行か む には

識別の鉄則

1. **主語の人称** を見る
2. 1人称 → 意志
3. 2人称 → 勧誘 or 適當
4. 3人称 → 推量
5. **下接語・文脈** を見る
6. 体言の前 → 婉曲（「～のような～」）
7. 「～むには／～むほど／～むには」 → 仮定
8. 「～む」が文末で疑問 → 推量
9. 「～む」が文末で意志を述べる → 意志
10. **接続** は必ず **未然形**
11. 文末の「む」連体形（「ぞ・なむ・や・か」結び）でも意味は同じ

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。

こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① まず「直後」を見ろ（婉曲・仮定を一発で切れる）

- 「む」 + 体言 → 婉曲（～のような）即答例：思はむこと／あらむ人
- 「む」 + に／には／ほど／ば → 仮定（もし～なら）例：行かむには／思はむほど

→ 直後が体言か接続助詞なら、人称を見るまでもなく確定。

コツ② 直後が文末／引用なら 人称 で3分割

直後が句点・「と」（引用）・「や／か」など文末系なら、主語の人称で決める。 - 1人称（我・吾・予・おのれ） → 意志（～よう） - 2人称（君・なんぢ・あなた） → 勧誘・適当（～してはどう／～のがよい） - 3人称・無生物（人・雨・花） → 推量（～だろう）

→ 主語省略が多いので、**動作主が誰か** を本文で探すのが鉄則。

コツ③ 2人称の勧誘か適当かは語気で判断

- 「や」「か」など疑問の終助詞付き → 勧誘（～しないか）
- 助言・推奨の文脈 → 適当（～のがよい）

例：君行かむや → 勧誘 / 早く帰らむ → 適当

コツ④ 「死なむ／往なむ」はナ変+む

「死なむ」「往なむ」だけは特殊。直前がナ変動詞「死ぬ／往ぬ」の未然形「な」+「む」。助動詞「ぬ」未然+「む」とほぼ同じ意味（～してしまうだろう）。

試験本番でのチェック順序

1. 直後が 体言 → 婉曲（即答）
2. 直後が に／には／ほど／ば → 仮定
3. 主語が 1人称 → 意志
4. 主語が 2人称 → 勧誘 or 適当
5. 主語が 3人称・無生物 → 推量

→ この順番で **3秒** で答えが出ます。

よくある引っかけ

- 主語省略が多い → 動作主を文脈で補う（敬語の有無もヒント）
- 「らむ」（現在推量）と混同 → 「ら」がなければ「む」で確定

- 「**けむ**」(過去推量)と混同 → 「**け**」がなければ「む」で確定
- 連体形「む」も意味は同じ(「ぞ・なむ・や・か」結びでも人称が決まる)

採点表

- 基礎 (Q1~Q20) : /20
- 標準 (Q21~Q50) : /30
- 応用 (Q51~Q80) : /30
- 入試レベル (Q81~Q100) : /20
- 合計 : /100

【第1部】基礎編 (Q1~Q20)

6用法をそれぞれ識別する基本問題。

Q1. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

雨降ら**む**。

答え : 推量 **解説** : 主語が「雨」(3人称)。文末で「~だろう」と推測。「雨が降るだろう」。

Q2. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ行か**む**。

答え : 意志 **解説** : 主語が「我れ」(1人称)。「私は行こう」。自分の意志を述べる。

Q3. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

君行か**む**や。

答え : 勧誘 **解説** : 主語が「君」(2人称)。「あなたは行きませんか」と相手に行動を促す。

Q4. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

思は**む**こと。

答え：婉曲 解説：下に体言「こと」。「思うようなこと／思うであろうこと」と婉曲表現。

Q5. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

行かむには、馬を用意すべし。

答え：仮定 解説：「～むには」は条件節「もし～ならば」。「(もし) 行くなれば、馬を用意するべきだ」。

Q6. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

風吹かむ。

答え：推量 解説：主語「風」(3人称)。「風が吹くだろう」。

Q7. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ寝む。

答え：意志 解説：下二段「寝(ぬ)」未然形「ね」+「む」。1人称。「私は眠ろう」。

Q8. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

早く帰らむ。

答え：適当(または意志) 解説：主語が省略。1人称なら「早く帰ろう」(意志)、2人称なら「早く帰ったらどうか」(適当)。文脈による。

Q9. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

春来む頃。

答え：婉曲 解説：カ変「来」未然形「こ」+「む」+体言「頃」。「春が来るような頃」。

Q10. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

君行かむほどに、文書きてやらむ。

答え：假定 解説：「～むほどに」は条件節「～の頃に／～したならば」。「君が行くならば、その間に手紙を書いて送ろう」。

Q11. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

月出でむ。

答え：推量 解説：主語「月」(3人称)。「月が出るだろう」。

Q12. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ知らむ。

答え：意志 解説：1人称。「私は知ろう／知りたい」。

Q13. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

行かむ所。

答え：婉曲 解説：体言「所」の前。「行くような所／行く所」。

Q14. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

君や知らむ。

答え：勧誘 or 推量 解説：「君」(2人称) + 係助詞「や」(疑問) + 「む」(連体形、結び)。「あなたは知っているだろうか」(推量の疑問) or 「あなたは知らないか」(勧誘的)。

Q15. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ書かむと思ふ。

答え：意志 解説：1人称+意志+引用「と」 + 「思ふ」。「私は書こうと思う」。

Q16. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

笛吹かむ人なし。

答え：婉曲 解説：体言「人」の前。「笛を吹くような人はいない」。

Q17. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

行かむには、しるべ要らむ。

答え：仮定（最初の「む」） 解説：「～むには」は条件節「もし～ならば」。「(もし) 行くならば、案内人が必要だろう」。

Q18. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

父帰らむ。

答え：推量 解説：主語「父」(3人称)。「父が帰るだろう」。

Q19. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ問はむ。

答え：意志 解説：1人称。「私は尋ねよう」。

Q20. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

君も食はむや。

答え：勧誘 解説：2人称+「や」(疑問)。「あなたも食べませんか」と勧める。

基礎編 / 20

【第2部】標準編 (Q21～Q50)

文脈・係り結び・引用構文を含む応用問題。

Q21. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

言はむことを、まづ聞け。

答え：婉曲 解説：体言「こと」の前。「言うようなことを、まず聞け」。

Q22. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ歌詠まむと決めぬ。

答え：意志 解説：1人称 + 「と」 + 「決めぬ」。「私は歌を詠もうと決めた」。

Q23. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

春雨や降らむ。

答え：推量 解説：「や」(疑問) + 「む」(連体形、結び)。主語が無生物(春雨) → 推量。「春雨は降るだろうか」。

Q24. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

いざ参らむ。

答え：意志(または勧誘) 解説：「いざ」(さあ) + 未然 + 「む」。「さあ、参ろう」(自分) or 「さあ、参ろう(一緒に)」(勧誘)。

Q25. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

行かむ人、馬を用意せよ。

答え：婉曲(または假定) 解説：体言「人」の前。「行くような人は、馬を用意せよ」。※ 仮定的に「行く人がいるならば」と解釈もできる。

Q26. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

鳥鳴かむ山に、いざ行かむ。

答え：最初の「む」=婉曲、後の「む」=意志 解説：- 「鳥鳴かむ山」：体言「山」の前 → 婉曲「鳥が鳴くような山」 - 「いざ行かむ」：1人称(共同) → 意志/勧誘「さあ行こう」

Q27. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ知らむやと、人間ふ。

答え：勧誘（または推量の疑問） **解説：**「我れ知らむや」全体を引用。1人称だが「や」（疑問）が付いて相手に問われる形なら「私を知るだろうか」（推量疑問）or「私を知ることを期待しているのか」（勧誘的）。文脈で判断。

Q28. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

夕月夜出でむ頃、参るべし。

答え：婉曲 **解説：**体言「頃」の前。「夕月夜が出るような頃に、参上すべきだ」。

Q29. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

父知り給はむ。

答え：推量 **解説：**「給は」（尊敬補助動詞）＋未然形＋「む」。主語が父（3人称）で尊敬付き。「父はご存知だろう」。

Q30. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ寝（ぬ）む。

答え：意志 **解説：**下二段「寝（ぬ）」未然形「ぬ」＋「む」。1人称。「私は眠ろう」。

Q31. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

君行かむかは。

答え：勧誘の反語（または推量の反語） **解説：**「かは」（反語の終助詞）。「あなたは行くだろうか、いや行くまい」（反語）。

Q32. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れも往なむ。

答え：意志 **解説：**「往（い）な」ナ変「往ぬ」未然形＋「む」。1人称。「私も立ち去ろう」。

Q33. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

月隠れむ夜。

答え：婉曲 解説：体言「夜」の前。「月が隠れるような夜」。

Q34. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

行かむほどに、待ちぬべし。

答え：假定 解説：「～むほどに」は条件節。「行くならば、待つに違いない」。

Q35. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ言はむことを聞け。

答え：婉曲 解説：体言「こと」の前。「私が言うようなことを聞け」。

Q36. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

君行かむやと、皆問へり。

答え：勧誘（または推量の疑問） 解説：四段「行く」未然形「行か」＋「む」＋係助詞「や」（疑問）。2人称「君」が主語。「あなたは行きませんか、と皆が尋ねている」。

Q37. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

風吹かむ音、いと寂し。

答え：婉曲 解説：体言「音」の前。「風が吹くような音は、とても寂しい」。

Q38. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ住まむ所、いまだ定めず。

答え：婉曲 解説：体言「所」の前。「私が住むような所は、まだ決めていない」。

Q39. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

春来**む**やと、人ごとに問ふ。

答え：推量の疑問 **解説：**カ変「来」未然形「こ」＋「む」＋係助詞「や」（疑問）。主語が無生物（春）→推量。「春が来るだろうか、と人ごとに尋ねる」。

Q40. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

行か**む**には、誰か供をすべき。

答え：仮定 **解説：**「～むには」条件節＋「誰か」（疑問）＋「す」連体「すべき」（疑問の結び）。「(もし) 行くならば、誰か供をするだろうか」。

Q41. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ食は**む**。

答え：意志 **解説：**1人称。「私は食べよう」。

Q42. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

雨止ま**む**。

答え：推量 **解説：**主語「雨」（3人称）。「雨が止むだろう」。

Q43. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

君も食は**む**かし。

答え：勧誘 **解説：**2人称＋念押し終助詞「かし」。「あなたも食べたまえ」（勧誘・強調）。

Q44. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ書か**む**ものを、人に見せじ。

答え：婉曲 **解説：**体言「もの」の前に来る「む」は婉曲が標準的解釈。「私が書くようなものを、人に見せまい」。連体形＋体言の形は婉曲・仮定に確定する。

Q45. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

いざ給へ、参らむ。

答え：勧誘（共同） 解説：「いざ給へ」（さあ、おいでください）＋「参らむ」（参りましょう）。1人称複数（共同）→ 勧誘的意志。

Q46. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

思はむほどの心地ぞする。

答え：婉曲 解説：「ほど」（＝程度・様）＋「の」＋体言「心地」。「思うような程度の気持ちがする」。

Q47. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

笛吹かむこと、難し。

答え：婉曲 解説：体言「こと」の前。「笛を吹くようなことは、難しい」。

Q48. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

君や問はむ。

答え：勧誘 or 推量 解説：「君」（2人称）＋「や」（疑問）＋「む」連体（結び）。「あなたは尋ねるだろうか／尋ねたらどうか」。

Q49. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ往なむと、思ひ立つ。

答え：意志 解説：「往な」ナ変未然＋「む」＋引用「と」。1人称。「私は立ち去ろう、と思ひ立つ」。

Q50. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

心知らむ人。

答え：婉曲 解説：体言「人」の前。「心を知っているような人」。

【第3部】 応用編 (Q51~Q80)

敬語・係り結び・引用が複雑に絡む応用問題。

Q51. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

中宮、御文書か**む**と仰せらる。

答え：意志（中宮の発言と読めば） **解説**：「書かむ」＋「と」（引用）＋尊敬「仰せらる」。中宮が発言主。「お書きになろう、とお命じになる」→中宮の意志を引用。

Q52. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ参ら**む**。されど、いまだ準備整はず。

答え：意志 **解説**：1人称。「私は参上しよう。しかし、まだ準備が整わない」。

Q53. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

春や来**む**、と心に待つ。

答え：推量の疑問 **解説**：「春」が主語（無生物）＋係助詞「や」（疑問）＋カ変「来」未然形「こ」＋「む」（連体、結び）。「春が来るだろうか、と心の中で待つ」。

Q54. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

君行か**む**やと、母心配す。

答え：勧誘（または推量の疑問） **解説**：「君」2人称＋「や」（疑問）＋「む」。「あなたが行くだろうか、と母が心配する」（推量）or「あなたが行ったらどうか、と母が心配する」（勧誘）。

Q55. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

いみじき宿世の人にあら**む**。

答え：推量 解説：「あら」（ラ変「あり」未然）＋「む」。3人称的（一般論）。「並々ならぬ宿縁の人であろう」。

Q56. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ仕うまつらむと申す。

答え：意志 解説：1人称＋意志＋引用「と」＋謙讓「申す」。「私はお仕え申し上げよう、と申し上げます」。

Q57. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

笛の音絶えむ夜。

答え：婉曲 解説：体言「夜」の前。「笛の音が絶えるような夜」。

Q58. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

御覧ぜさせたまはむ。

答え：推量（または尊敬の二重敬語＋推量） 解説：「御覧ぜ」（サ変「御覧ず」未然）＋尊敬「さす」連用「させ」＋尊敬「たまは」未然＋「む」。「ご覧になるだろう」（尊敬二重敬語＋推量）。

Q59. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

嘆かむこと、目に見ゆ。

答え：婉曲 解説：体言「こと」の前。「嘆くようなことが、目に浮かぶ」。

Q60. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

早く立ち去らむ。

答え：意志 or 適当 解説：1人称なら「早く立ち去ろう」（意志）、2人称なら「早く立ち去ったらよい」（適当）。

Q61. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

知らむ人。

答え：婉曲 解説：四段「知る」未然形「知ら」＋「む」＋体言「人」。「知っているような人」（婉曲）。

Q62. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

山深く分け入らむ。

答え：意志 or 推量 解説：1人称なら意志「山深く分け入ろう」、3人称・一般なら推量「分け入るだろう」。

Q63. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

物思ふ我れも、いま忘れなむ。

答え：意志 解説：「忘れ」下二段連用＋完了「ぬ」未然「な」＋「む」。1人称。「物思いに沈む私も、今、忘れてしまおう」。

Q64. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

雨いやまさらむ。

答え：推量 解説：副詞「いや」（＝ますます）＋四段「増さる」未然形＋「む」。「雨がますますひどく増すだろう」。

Q65. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

君もろともに参らむやは。

答え：勧誘の反語 解説：副詞「もろともに」（一緒に）＋四段「参る」未然形「参ら」＋「む」＋「やは」（反語）。「あなたも一緒に参りませんか、いやそうではない」（反語）。

Q66. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

唐土に渡らむ人、希にあらむ。

答え：最初の「む」＝婉曲、後の「む」＝推量 **解説：** - 「渡らむ人」：体言「人」前 → 婉曲「中国に渡るような人」 - 「あらむ」：3人称+推量「(多くは) いないだろう」

Q67. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

老い**む**身、いかでか若く保た**む**。

答え：最初の「む」＝婉曲、後の「む」＝意志（または推量） **解説：** - 「老いむ身」：体言「身」前 → 婉曲「老いるような身」 - 「保たむ」：1人称（自身） → 意志「保とう」

Q68. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

いま帰ら**む**かし。

答え：意志（または勧誘） **解説：**「かし」（念押し）。1人称なら「もう帰ろうよ」、2人称なら「もう帰ったらどうか」。

Q69. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

思は**む**こと言は**む**。

答え：両方とも婉曲（or 意志） **解説：** - 「思はむこと」：体言「こと」前 → 婉曲「思うようなこと」 - 「言はむ」：1人称（自身） → 意志「言おう」 全体：「思うようなことを、言おう」。

Q70. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

心知ら**む**人にこそ、見すべけれ。

答え：婉曲 **解説：**「知らむ人」＝「心を知っているような人」（婉曲）。係助詞「こそ」の結びは已然形「べけれ」（助動詞「べし」已然形）。「心を知っているような人にこそ、見せるべきだ」。

Q71. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れもまた仏に祈ら**む**。

答え：意志 **解説：**1人称+意志。「私もまた仏に祈ろう」。

Q72. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

君行かむ所、いづくぞ。

答え：婉曲 **解説：**「行かむ所」：体言「所」前 → 婉曲「行くような所」。「あなたが行くようなところは、どこか」。

Q73. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

嘆かむやは。

答え：意志の反語（または推量の反語） **解説：**「嘆かむやは」 = 「嘆くだろうか、いや嘆くまい」（反語）。

Q74. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

鳥鳴かむ朝、目覚めなむ。

答え：最初の「む」 = 婉曲、後の「む」 = 意志 **解説：** - 「鳴かむ朝」：体言「朝」前 → 婉曲 - 「目覚めなむ」：完了「ぬ」未然 + 「む」、1人称 → 意志「目覚めてしまおう」

Q75. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

行かむには、馬要らむ。

答え：両方とも意味が必要 **解説：** - 「行かむには」：仮定「行くならば」 - 「要らむ」：3人称（馬） → 推量「要るだろう」

Q76. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

君わが心知らむやは。

答え：推量の反語 **解説：**「知ら」（四段「知る」未然形） + 「む」 + 「やは」（反語）。「あなたが私の心を知るだろうか、いや知るまい」。助動詞「む」は未然形接続なので「知り（連用） + む」ではなく「知ら（未然） + む」が正しい接続。

Q77. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

仏に祈らむ人。

答え：婉曲 解説：体言「人」前。「仏に祈るような人」。

Q78. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

いざ参らむやは。

答え：勧誘の反語 解説：「いざ参らむやは」＝「さあ参ろうか、いや参るまい」（反語）。

Q79. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

鳥や鳴かむ、と耳を澄ます。

答え：推量 解説：「鳥」（3人称）＋「や」（疑問）＋「む」（連体結び）。「鳥が鳴くだろうか、と耳を澄ます」。

Q80. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ寝なむ。

答え：意志 解説：「寝（ね）」下二段連用＋完了「ぬ」未然「な」＋「む」。1人称。「私は眠ってしまおう」。

応用編 / 30

【第4部】 入試レベル（Q81～Q100）

Q81. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

唐土に渡らむ人、すくなからむ。

答え：推量 解説：「すくなから」（形容詞「すくなし」未然形）＋「む」。「中国に渡るような人は、少ないだろう」。

Q82. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

月見む人、いざ夜更けにあり給へ。

答え：最初の「む」＝婉曲、後の「あり給へ」は命令 **解説：**「見む人」：体言前 → 婉曲「月を見るような人は」。「給へ」 尊敬命令「いてください」。

Q83. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ、なほ生かさむと思ふ。

答え：意志 **解説：**「生かさ」四段「生かす」未然＋「む」＋引用「と」＋「思ふ」。1人称。「私は、まだ生かそうと思う」。

Q84. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

春の野に咲かむ花、いまだ知らず。

答え：婉曲 **解説：**体言「花」前。「春の野に咲くような花を、まだ知らない」。

Q85. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

いみじき宿世の人にしあらむ。

答え：推量 **解説：**「あら」ラ変未然＋「む」。3人称的（断定的推量）。「並々ならぬ宿縁の人なのであろう」。

Q86. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

父の御志、いかでか忘れむ。

答え：意志の反語 **解説：**「いかでか」(＝どうして)＋「忘れむ」(1人称・意志)。「父のお志を、どうして忘れようか、いや忘れまい」(反語)。

Q87. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

物のあはれを知らむ人にこそ。

答え：婉曲 **解説：**「知らむ人」体言前＋係助詞「こそ」＋結び省略(「見すべけれ」など)。「物のあわれを知っているような人にこそ(見せるべきだ)」。徒然草の典型。

Q88. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

風吹かむ夕、なほものあはれなる。

答え：婉曲 解説：体言「夕」前。「風が吹くような夕方は、なおもしみじみと趣ある」。

Q89. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

君や生かむ、我れや死なむ。

答え：両方とも意志的疑問（または推量） 解説： - 「君や生かむ」：2人称＋「や」→ 勧誘的疑問「あなたが生きるのか」 - 「我れや死なむ」：1人称＋「や」→ 意志的疑問「私が死ぬのか」 全体：「あなたが生きるのか、私が死ぬのか」（運命を問う）。

Q90. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

春の野に若菜摘みむ人、いまだ来ず。

答え：婉曲 解説：体言「人」前。「春の野に若菜を摘むような人が、まだ来ない」。

Q91. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

いざ参らむかし。

答え：意志（共同）または勧誘 解説：「いざ」（さあ）＋意志「む」＋念押し「かし」。「さあ、参ろうよ」（自分＋相手を誘う）。

Q92. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ、いま死なむものを、と嘆く。

答え：意志 解説：「死な」ナ変未然＋「む」＋逆接「ものを」（～のに）。1人称。「私は今死のうとしているのに、と嘆く」。

Q93. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ生かむやは、人皆生かして。

答え：意志の反語 **解説：**「生かむやは」＝「生きようか、いや生きまい」（反語）。「人々皆を生かしておいて、（自分だけ）生きようか、いや生きまい」。

Q94. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

心知らむ人にこそ、語らはめ。

答え：婉曲 **解説：**「知らむ人」体言前＋係助詞「こそ」＋已然形「語らはめ」（こそ結び、「語らふ」未然＋「む」已然）。「心を知っているような人にこそ、語り合うのだ」。

Q95. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

思はむ人。

答え：婉曲 **解説：**四段「思ふ」未然形「思は」＋「む」＋体言「人」。「思っているような人」（婉曲）。

Q96. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ笛吹かむ、と聞かす人ぞよき。

答え：意志 **解説：**1人称＋意志＋引用「と」。「私が笛を吹こう、と聞かせる人がよい」。

Q97. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

月清けき夜、いざ歌詠まむやは。

答え：勧誘の反語 **解説：**「いざ」＋「やは」（反語）。「さあ、歌を詠もうか、いや詠むまい」。

Q98. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

春の山にいざ分け入らむ。

答え：意志（または勧誘） **解説：**「いざ」＋意志「む」。1人称（共同）。「さあ、春の山に分け入ろう」。

Q99. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

思はむこと、君に語らむ。

答え：最初の「む」＝婉曲、後の「む」＝意志 **解説：** - 「思はむこと」：婉曲「思うようなこと」 - 「語らむ」：1人称（自分）→ 意志「語ろう」 全体：「思うようなことを、あなたに語ろう」。

Q100. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

唐土の人は、これをいみじと思へばこそ、記しとどめて世にも伝へけむ、これらは、ただ夢のごとくにぞある。

答え：傍線部「けむ」（けむ已然形）＝過去推量「けむ」の已然形「けむ」 **解説：**「け+め」は過去推量「けむ」（過去の事柄を推量する）已然形+係助詞「こそ」の結び。「中国の人は、これを優れていると思ったからこそ、書き留めて世にも伝えたのだろう、これらは、ただ夢のようにある」。徒然草の有名な一節。 ※【本問の趣旨】「む」ドリルの最終問題として、「む」と「けむ」が別の助動詞であることを確認する応用問題。「けむ」＝過去推量／過去の伝聞／過去の婉曲。本シリーズでは「けむ」の識別を別途ドリル化（→「けむ」識別100題）。

入試レベル / 20

合計 / 100

あとがき

「む」の用法識別の核心： - **主語の人称** が最重要（1=意志、2=勧誘・適当、3=推量） - **下接語** で婉曲・仮定を見抜く（体言の前＝婉曲、～むには＝仮定） - **係り結び** で連体形「む」が文末に来る場合あり（意味は同じ）

「む」「むず」「けむ」「らむ」は古文の推量系の代表選手。違いを整理： - む：未来推量「～だろう」 - むず：意志的・確定推量 - けむ：過去推量「～ただろう」 - らむ：現在推量「（今ごろ）～ているだろう」

本ドリル100問で「む」のすべての用法に触れています。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

